

科目区分	統合分野	科目名	在宅看護概論	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学期	第1学期
担当講師	非常勤講師				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の特性を学び、在宅看護の機能と役割を理解する。 2. 在宅療養者とその家族の特徴について理解する。 3. 保健医療福祉の連携や社会資源活用の方法を理解する。 				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が必要とされる背景と根拠 (講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の対象と背景 2) 在宅療養を支援する仕組み 3) 在宅看護における権利の保障 2. 在宅介護の対象と生活 (講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養の自立支援 2) 在宅における病状・病態の経過の予測と予防 3) 生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割 4) 在宅療養者の家族への看護(レスパイトケアなど) 5) 日常生活における安全管理 6) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 3. 訪問看護の概要 (講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護制度の理解 2) 訪問看護制度の法的枠組み 3) 訪問看護サービスの仕組みと提供 4. 在宅療養者の状態・状況にあわせた看護 (講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療機関との入退院時の連携 2) 施設との入退院時の連携 5. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 6. 在宅看護におけるケースケアマネジメント・ケアマネジメント 7. 社会資源の理解と活用(社会参加への援助) 8. 科目終了試験 				
看護師国家試験出題基準	<p>訪問看護の変遷 訪問看護の提供方法と種類 訪問看護制度の課題 介護保険法 健康保険法 障害者総合支援法 訪問看護ステーションの開設基準 訪問看護サービス開始までの流れ 訪問看護サービスの展開 訪問看護サービスの質保証 訪問看護サービスの管理・運営 国民の価値観 疾病がある家と家族 障害がある者と家族 疾病や障害がある者の社会参加 在宅医療・介護に関する仕組み 地域包括ケアシステム 在宅療養者の権利擁護(アドボカシー) (成年後見制度) 虐待の防止 個人情報の保護と管理 サービス提供者の権利と保護 価値観の尊重と意思決定支援 QOLの維持・向上 セルフケア 社会参加への援助 病状・病態の経過の予測 予測に基づく予防 在宅での感染予防対策 外来看護 訪問看護 入所施設での看護 通所施設での看護 家族の介護力のアセスメントと調整 家族関係の調整 ケア方法の指導 介護者の健康 レスパイトケア 家屋環境の整備 転倒・転落の防止 誤嚥・窒息の防止 熱傷・凍傷の防止 熱中症の予防 閉じこもりの予防 独居高齢者の防災 在宅療養者・家族への防災対策の指導 医療機関との連携による医療上の健康危機管理 福祉機関と連携による生活上の健康危機管理 行政との連携</p>				
授業の進め方	<p>看護学概論で学習した看護の概念、看護の対象、看護の機能等について想起しながら学習を進めていく。 在宅看護についてイメージが図れるよう、視聴覚教材や事例を用いながら授業を展開していく。 授業形態は、講義や演習を組み合わせで行う。</p>				
履修のポイント・留意事項	<p>「看護学概論」「老年看護学」「人間と社会」で学習したことを想起しながら学習を進める。 在宅で療養する人々のみでなく施設内で治療を受けている人、療養を受けている人を「生活者」という視点で捉えられるよう学習を進めていく。</p>				
テキスト	<p>系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学[1] 医学書院</p>				
評価方法・配点	<p>終了試験・課題レポート・授業参加状況を総合的に評価する。</p>				